

特集

財政公表

平成19年度の決算状況



平成19年度の 決算と収支

◎各会計の決算状況

市の財政は、一般会計のほか、7つの特別会計（国民健康保険、学校給食事業、公共下水道事業、老人保健、簡易水道事業、介護保険、カルルス温泉スキー場事業）と1つの企業会計（水道事業）で運営しました（3ページ「財政用語解説①参照」）。

各会計の決算状況（「表1」「グラフ1」参照）を見ると、簡易水道事業特別会計とカルルス温泉スキー場事業特別会計は、歳入と歳出が同額。一般会計と国民健康保険特別会計、学校給食事業特別会計、公共下水道事業特別会計、老人保健特別会計、介護保険特別会計は黒字となりました。この黒字額は繰り越され、平成20年度の歳入（繰越金）になります。

【表1】平成19年度各会計決算額

会計区分	歳入	歳出	差引額	
一般会計	192億1,237万円	186億8,577万円	5億2,660万円	
特別会計	国民健康保険	72億781万円	66億3,452万円	5億7,329万円
	学校給食事業	3億2,531万円	3億2,520万円	11万円
	公共下水道事業	26億8,121万円	26億8,093万円	28万円
	老人保健	64億3,092万円	64億2,740万円	353万円
	簡易水道事業	3,113万円	3,113万円	0円
	介護保険	27億8,000万円	27億2,683万円	5,317万円
	カルルス温泉スキー場事業	9,847万円	9,847万円	0円

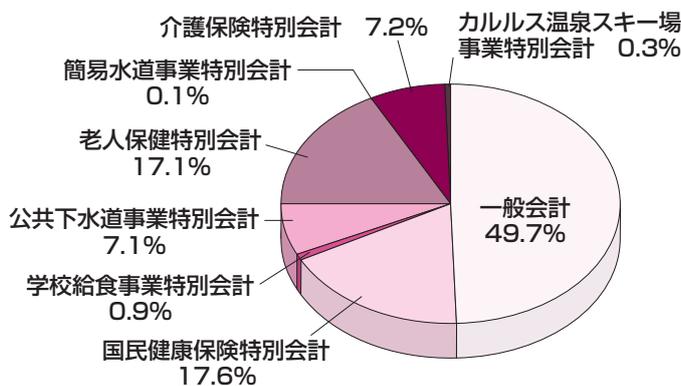
※各項目で表示単位未満を四捨五入しているため、積み上げ額が一致しない箇所があります。

一般会計の収支

それでは、一般会計の決算の状況についてご説明します。

平成19年度一般会計の歳入総額は

【グラフ1】平成19年度各会計歳出全体に占める割合



192億1千237万円、歳出総額は186億8千577万円で、これを差し引きした収支は5億2千660万円となりました。

この黒字額は繰り越され、平成20年度の歳入（繰越金）になります。

歳入の内容

次に、一般会計の歳入の決算内容を見てみましょう（3ページ「表2」【グラフ2】参照）。

使いみちが自由なお金（『一般財源』といいます）の代表的なものが市税と地方交付税（4ページ「財政用語解説②参照」）です。

この合計が収入の約55・3%を占めており、市はこの財源を基本にしなが、そのほかに補助金や市債などを活用して事業を行っています。

市税は、『三位一体の改革』（4ページ「財政用語解説②参照」）による税源移譲によって、市民税の税率が引き上げられた（一方で、国税である所得税の税率が引き下げられました）ことや収納率の向上などにより収入は増えました。

しかし、この増加は制度改正による影響が大きく、景気が本格的な回

市の平成19年度予算は、平成20年3月31日
で会計年度を終了し、現金の未収や未払いを
整理するための期間を経て、最終的に5月31
日をもって出納閉鎖されました。
今月号では、わたしたちのまちの財政状況
がどうなっているのかを、市民の皆さんに知
っていたため、表やグラフを使いながら、
平成19年度の決算状況をお知らせします。